

にし^の まち から レポ

西東京・生活者ネットワーク

TEL 042-453-4121

FAX / 042-410-0014

E-mail / nishitokyo@seikatsusha.net

http://nishitokyo.seikatsusha.me/

No.109



政治をもっと、身近なものに。

政治を遠くにある手の届かないものではなく、誰もが身近なものとして関わられたら、と思っています。一人ひとりの生活の中から生まれた実感を引き、きちんと政治につなげ、社会全体を良いものにしていくこと。これが私たちの望みです。



発行日 / 2022年1月17日

発行責任者 / 石田 裕子

市議会議員・後藤 ゆう子

市議会議員・かとう 涼子

〒202-0015 西東京市保谷町6-25-1-102

TEL 042-453-4121



コロナ禍で追いつめられる女性たち いまこそ、ジェンダー平等社会の実現を！

コロナ禍は、女性の抱える課題を顕在化させたとされています。シングルマザーの困窮にDV相談や性暴力被害の増加、女性の自殺増など、平時の弱者が有事にはますます追い込まれるという厳しい現実、私達はどうか向き合えば良いのでしょうか。西東京市の「パリティ」で男女平等推進委員会副委員長を務める安田和代さんをお招きして、学習会を開きました。

コロナ禍が生活を直撃——翻弄される女性たち

「一斉休校とテレワークで家族が毎日家にいる日々。自分ですら家事に忙殺された。もっと大変な人はSOSすら出せなかったのでは。」講演会の冒頭で後藤ゆう子が、東久留米市で行われたコロナ禍の女性向け連続講座を紹介し、西東京市でもぜひ開催してほしいと議会で取り上げた経緯を紹介しました。この講座を企画したのが、東久

留米市男女平等推進センターのコーディネーターも兼任する安田さんでした。「感染拡大が続く中、東久留米市では女性相談の予算を増額し、相談枠も増やして対応しました。雇用や生活の危機にさらされた女性がセーフティネットについて学ぶ連続講座は、近隣市や他県からも参加があるほど反響が大きかった」と安田さん。一方で、講座に出る余裕のない人も多く、講座のチラシはそんな女性たちに向けて「いつでもSOSを出していいよ」というメッセージを届けるためのツールでもあったのだそうです。

「私の問題」は政治とつながっている

一方で、安田さん自身も多くの女性同様、非正規雇用です。女性相談員のほか、虐待防止に携わる子ども家庭専門員、消費生活相談員、公民館専門員など、自治体で働く専門職の多くは有

期契約かつ年収200万円以下の女性という現実。「女性の貧困は、当事者としての自分の問題でもある。個人的なことは政治的なことにつながっている。だからこそ現実に関心を寄せ、仲間を作り、声をあげることからはじめていきましょう」と安田さん。

参加者からは「ジェンダー平等の視点で次世代をどう育てるかが大切」「今の日本の現状を変えるのはクオータ制しかない」「LGBTQは深刻な問題。『男女』という言葉で置き換えるべきではないか」などの意見が寄せられました。

女性が住みにくいまちと地域の衰退には、相関関係があるといわれています。最後にかとう涼子

が、「人口減少都市ほど、戦略的にジェンダーギャップの解消に取り組んでいる。あらゆる政策をジェンダーの視点で見直していくことが必要」と兵庫県豊岡市の例を紹介*。地域で40年来女性議員を送り出した地域政党として、ジェンダー平等社会の実現を誓い、学習会を締めくくりました。

*兵庫県豊岡市……2021年3月に自治体初の「豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略」を市内16事業所と共に策定。今後10年間で「地域の意思決定に男女が共に参画」「家庭において男女が家計責任とケア責任を分かち合う」「経済的に自立し、いきいきと暮らす女性が増える」などの目標を掲げる。



▲講師の安田和代さん



池澤市長に予算要望書を提出しました

2022年度の予算編成に先立ち、全88項目を要望しました。

- ✓ コロナ第六波に備えた自宅療養者支援の体制整備
- ✓ コロナ禍の女性支援に向けた相談体制の強化
- ✓ 高齢者のサロン活動再開に向けた支援の強化
- ✓ 障害者の多様な就業機会の確保と超短時間雇用の実現
- ✓ 子ども食堂への恒常的な支援
- ✓ 使い捨てプラスチックの徹底削減
- ✓ 学校給食への地場野菜割合を30%に向上 ほか

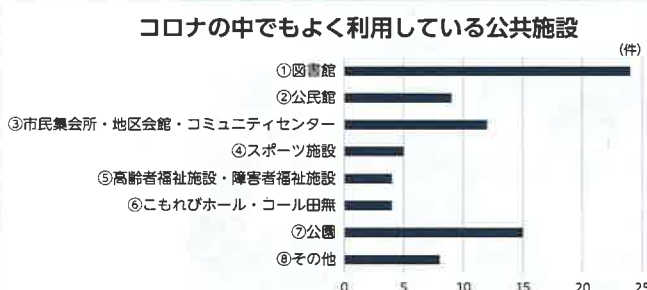


要望書の詳細はHPから参照できます。

市民の活動の場を閉鎖したことに對し、自由回答では「家以外に居場所がなかった」「サークル活動・ボランティア活動が出来ず生きがいを失った」「改めて公共施設の重要性を感じた」という声が寄せられました。

市民のストレスが一層大きくなったことを肌で感じた生活者ネットは、4度目の緊急事態宣言発出時に、「市長への緊急要望書」を提出し、公共施設、コミュニティ拠点の閉鎖継続へとつなげました。

私たちの活動の原点は「市民の声を市政に」。引き続き、皆さまの「意見をお待ちしております」。

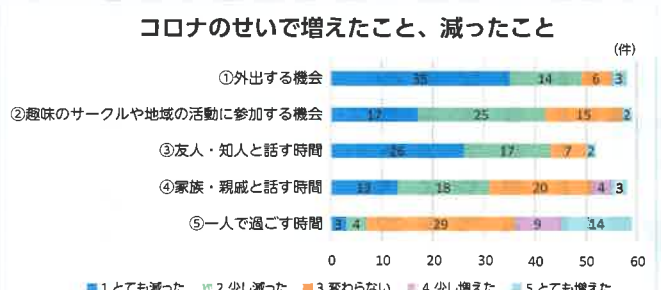


市民の活動の場を閉鎖する

3度目の緊急事態宣言の際に公共施設が閉鎖したことに對し、自由回答では「家以外に居場所がなかった」「サークル活動・ボランティア活動が出来ず生きがいを失った」「改めて公共施設の重要性を感じた」という声が寄せられました。

市民のストレスが一層大きくなったことを肌で感じた生活者ネットは、4度目の緊急事態宣言発出時に、「市長への緊急要望書」を提出し、公共施設、コミュニティ拠点の閉鎖継続へとつなげました。

私たちの活動の原点は「市民の声を市政に」。引き続き、皆さまの「意見をお待ちしております」。



「ひとこと提案」
ありがとうございました！

生活者ネットが毎年実施している「ひとこと提案」アンケート。コロナ禍の中でいただいた市民の皆様からの声を、しっかりと市政につないでまいります。

